

会 議 記 録

会議名称	第10回忠類地域住民会議
開催日時	平成29年11月10日（金）13:30～15:24
開催場所	忠類総合支所 2階小会議室
出席者	委員長、委員14名中出席者9名、事務局4名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 議案第1号 第6期の提言について (2) その他 報告等 4 閉会
会議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 議案第1号 第6期の提言について 第9回までの会議内容から、提言について個別に意見を出し合って終了した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町外から忠類に通う人の住宅供給を考えなくてはならない。忠類で民間賃貸住宅の家賃が5万円では高い気がする。公営住宅を（法の制限の無い）町営住宅とし、空いている住宅を有効利用できないか。 ・ 忠類には観光の分野で地域おこし協力隊を導入することが有効ではないか。また、記念館もあるので学芸員の資格を持った協力隊の活用もぜひやってほしい。予算を担当する政策推進課は忠類の現状をどのくらい捉え、どのように考えているのか話を聞いてみたい。 ・ 地域おこし協力隊を民間で受け入れるためにはコンセンサスが必要。忠類では受入母体となる団体や企業が少ないので難しい部分もあるが、来年度からでもどンドンスタートした方が良い。 ・ 忠類地域の歴史を継承する手立てとして学校で忠類の歴史を学べる副読本を活用し、子どもたちに地域のことを教えることで、郷土愛が生まれるのではないか。 ・ 提言書に「地域の歴史を継承する手立てを講じる」と載せるだけでなく、副読本的な冊子を民間主導で作るという位置づけが大事で、具体的にどう取り組むかまで書くべきである。 ・ 中学生になる時期にトラブルで不登校になるケースがあるが、必ずしも中1ギャップとは言えない場合もある。思春期とも重なる時期で、子どもたちの心と体の変化に学校としてどう対応していけるかが大事。 ・ 小中一貫教育で、学校同士が連携するのは良い。 ・ クラブや少年団活動は教員に頼っている現状のため、転勤で後が続かないことも起こり得る。町でそういった活動を支援する体制を取ってくれると長続きしやすいのでは。 ・ 窓口を教育委員会として、講師への謝礼の規定など、きちんとした形ができれば白銀台スキー場に来るスキー教室も多くなるのではないか。 ・ 第一線で活躍するスポーツ選手の指導を受けると子どもたちのやる気や技術が格段に上がるが、スケートなどシーズン中は選手も忙しいので時間が取れないのが現実。

- ・ 総合計画に「オリンピック選手の育成」とあるが、体を動かす環境整備が主で、我々が想像する育成とは全く違う印象を持った。

(2) その他

- ・ アライグマについて

アライグマの農作物被害があるので、町の広報やホームページなどでアライグマの危険性などを告知してほしい。

- ・ 全国瞬時警報システム（Jアラート）について地域振興課から報告

Jアラートが発令された場合、11月1日からは、とちぎ広域消防で消防用サイレンを鳴らし（30秒吹鳴6秒休みを3回繰返し）、その後、支所職員または消防署員が防災行政無線を手動で流す方法に変更となった。

4 閉会